新潟県内の大学分類別志願者動向（2001－2015年度）

山口　雄三・大場　純慈*・内海　佳之**

Changing Trends in Numbers of Students Applying to Various Kinds of Universities and Colleges in Niigata Prefecture Over the Past 15 Years

Yuzo Yamaguchi, Junji Oba*, Yoshiyuki Uchiumi**

1. 緒　言

新潟県内には、現在、国公立大学・私立大学・短期大学を合わせて22大学がある。これらの大学では、毎年、県内・県外から数多くの志願者を募っている。一方、高校を卒業後、県外の大学に進路を求める若者も数多く存在する。[1)] 新潟県は、以前、大学等進学率の低い県と言われていたが、1986年度18.1％（全国順位47位）から上昇し、2008年度には48.7％（29位）となり、現在に至っている。（2015年度、46.7％、32位）[2)]

私立大学に携わる者として、本県の大学への進学率並びに志願者数の推移には関心を持たざるを得ない。県内大学への志願者動向、特に県内私立大学への志願者数推移は国公立大学のそれと併せて非常に気になるところである。

平成28年２月26日、総務省は2015年国勢調査の速報値を発表した。その結果、国勢調査開始以来、初めて人口がマイナスに転じ、日本ははっきりと人口の減少期に入ってきた。[3)] 都道府県別に見ると、39都道府県で人口が減少しており、新潟県は平成22年2,374,450人から平成27年2,305,098人へと69,352人減少した。

本県は人口減少問題に真剣に取り組んでいるが、[4)] 県内人口は、今後、減少の一途をたどるであろう。18歳人口は減少し、[5)] 県内大学への志願者数の減少が予想される。中でも短期大学を含めた私立大学の学生確保はより厳しいものとなるであろう。また、私立大学と比べればダメージが少ないと考えられる国公立大学においても、その影響は避けられないであろう。近年、全国的な傾向として、地域の私立大学が当該地域あるいはその周辺地域と連携を深めて公立化する動きが見られる。新潟県でも同様な動きが報告されているが、[6)] 地方私立大学の公立化の動きに対していくつかの問題点を指摘する声もある。[7)] 本県では、これまで公立短期大学の四大化、私立大学の公立大学法人化が行われている。そのような変化に対して受験生がどう反応しているかを具体的に探ることも、地域における大学志願者の動向、ひいては地方の大学の在り方を考える上で重要であろう。また、先に我々は本学の志願者数予測に

* 新潟青陵大学・短期大学部学務課主幹，** 新潟青陵大学･短期大学部学務課主任

ついて報告したが、その中で、県内大学の志願者動向について概観した。最近の県内四年制大学への進学者数は増加しているにもかかわらず、県内高校からの志願率は低下しており、その原因は、県内高校生の県外大学への進学、公立短期大学の四大化、私立大学の公立化による県外志願者数の増加、一部の県内私立大学への県外志願者数増加によるものであることを示唆した。[5)]

ここでは、これまであまり明らかにされたことのなかった新潟県内にある大学の志願者動向を、より詳細に捉えることを目的として、国立大学、公立大学、私立大学、短期大学毎に分類し、県内大学の志願者数推移を比較的長期にわたって調査したことについて報告する。

2. 調査方法

2－1. 調査データ

本報告では、新潟県が一般に公開している下記に示すオープンデータを主に用いた。それ以外のものは参考文献として別記した。

新潟県教育庁総務課「大学等進学状況調査報告書」平成13－27年度（2001－2015年度）

上記オープンデータから必要な調査項目のデータを抽出した。

2－2. 調査対象

現在、新潟県内には表１に示すように、運営主体毎に、国立大学３校、公立大学３校、私立大学11校、私立短期大学５校がある。この分類に基づき志願者数などを調査した。（ここでは「大学等進学状況調査報告書」に掲載されている大学のみを取り上げ、高等専門学校などは含めない。）

表1　新潟県内大学一覧

分　類	大　学　名
国立大学	新潟大学
	長岡技術科学大学
	上越教育大学
公立大学	新潟県立大学
	新潟県立看護大学
	長岡造形大学
私立大学	日本歯科大学
	新潟青陵大学
	新潟工科大学
	新潟経営大学
	新潟国際情報大学
	敬和学園大学
	新潟薬科大学
	新潟産業大学
	長岡大学
	新潟医療福祉大学
	新潟リハビリテーション大学
短期大学	新潟青陵大学短期大学部
	新潟工業短期大学
	新潟中央短期大学
	日本歯科大学新潟短期大学
	明倫短期大学

3. 調査結果

3－1. 新潟県内大学分類別定員数推移

表２には2015年度における新潟県内大学定員数（１学年）とその割合（％）を示した。私立大学2,635人（40.9％）＞国立大学2,487人（38.6％）＞短期大学740人（11.5％）＞公立大学583人（9.0％）である。国立大学と私立大学の定員の合計は拮抗し、本県では、四年制大学の定員数に限ってみれば、国公立大学合計定員数3,070人は私立大学2,635人を上回っている。

図１には、2001年度から2015年度に至る過去15年間の県内大学分類別定員数（短期大学を含む）の推移を示す。

県内大学の総定員数は、2001年度から2015年度にかけて6,281人から6,445人に増加している。国

立大学については、ほとんど変化は見られない。公立大学は、当初、存在しなかったが、現在は県立大学２校、市立大学１校に増え、それによって定員も段階的に増加している。公立大学の定員総数は583人であり、これは2002年度の県立看護大学の設立、2009年度の県立女子短期大学の四年制大学への移行、2014年度には長岡造形大学が公立化されたことによる。

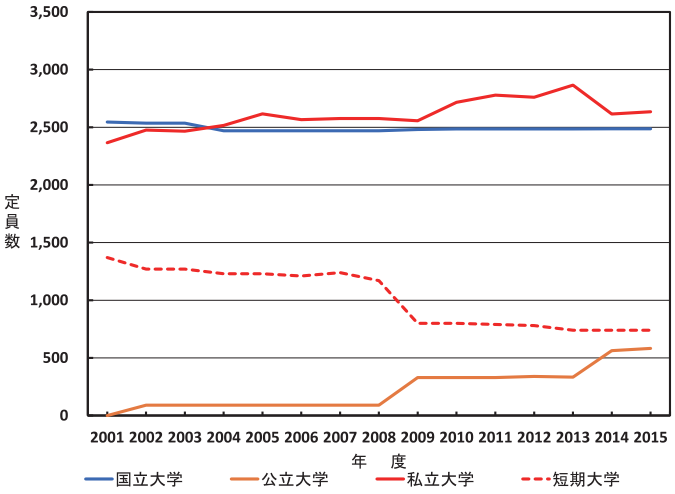
私立大学は、2,366人から2,635人に増加している。この間、定員数は増減を繰り返しながら推移している。これは、各大学の状況によって、既存学科の定員増減、統廃合、新しい学部、学科の創設などが行われたことによる。

短期大学の定員は、2009年度に県立女子短期大学が四年制県立大学に移行したことで大きく減少し、その後も少しずつ減り続けている。現在では、本学人間総合学科、幼児教育学科、その他、自動車整備士、歯科衛生士などの養成に特化した私立短期大学、合計５校定員740人である。

表2　2015年度新潟県内大学定員数

区　分	定員数	定員数割合（%）
国立大学	2,487	38.6%
公立大学	583	9.0%
私立大学	2,635	40.9%
短期大学	740	11.5%
合　計	6,445	100.0%

図1　新潟県内大学分類別定員数推移



3－2. 新潟県内大学志願者数推移

ここで大学志願者数として示している数値は、上記の「大学等進学状況調査報告書」から引用している。この報告書は各大学が毎年定期的に新潟県教育庁に報告したものをまとめている。志願者数はのべ志願者数であり、当該年度の卒業者だけでなく、過年度の卒業者も含まれる。また、報告書では「県内高等学校卒業者」「県内高等学校卒業者以外」の分類が用いられているが、本報告でもこれに沿って区別する。ただし、「県内高等学校卒業者」については、以下、「県内高校」と示し、「県内高等学校卒業者以外」については、県外高等学校以外の志願者も含まれるが、実質的には県外高等学校からの志願者がほとんどであると想定されることから、以下、「県外高校」と示す。

ここではまず新潟県内大学への大学志願者の県内高校および県外高校の志願者数推移について検討する。

表３には2015年度における県内大学志願者数の県内・県外高校別、男女別の志願者数とその割合（%）、図２には過去15年度（2001 ～ 2015年度）の県内、県外高校の志願者数推移を示す。

表３から、2015年度県内大学志願者数は21,143人、県内高校11,627人（55.0％）、県外高校9,516

表3　2015年度新潟県内大学志願者数

区　分		志願者数	志願者数割合（%）
県内高校	男子	4,977	23.5
	女子	6,650	31.5
	計	11,627	55.0
県外高校	男子	5,060	23.9
	女子	4,456	21.1
	計	9,516	45.0
合　計		21,143	100.0

人（45.0％）と県内高校の志願者が2,111人（10.0％）多い。男女別では、男子が10,037人（47.4％）、女子11,106人（52.6％）と女子が1,069人（5.2％）多い。区分別の志願者数は、県内高校女子6,650人（31.5％）＞県外高校男子5,060人（23.9％）＞県内高校男子4,977人（23.5％）＞県外高校女子4,456人（21.1％）の順である。このことから、県内高校出身者は、男子であれば県外への進学を、女子であれば県内への進学を選択する傾向があることがわかる。

図２には横軸に年度、縦軸に県内大学志願者数をとり、志願者数を県内･県外高校に区別し、積み上げグラフとして時系列でそれぞれの志願者数推移を示した。

この図から県内大学志願者総数は2002年度23,387人をピークに減少し、2008年度には16,958人となった。その後志願者数は増加し、2015年度には21,143人となっている。この間、県内高校志願者数は増減の変化は少なく、緩やかに推移している。それに対して県外高校志願者数は、大きな増減が見られる。それを詳らかにするために、図３には県内大学志願者数推移の県内高校、男女別、図４には県外高校、男女別を示す。

図３から2015年度における県内大学への県内高校男子志願者数4,977人、女子は6,650人と女子の志願者数は1,673人多い。過去の推移を見ても女子志願者が多く、この中には、ほとんどが県内高校志願者である短期大学への女子志願者も含まれる。しかし、この短期大学への女子志願者数を除いても、県内四年制私立大学への女子志願者数は男子のそれを上回っている。近年、男子志願者数は減少傾向を示している。女子も減少傾向は見られるものの男子ほど顕著ではなく、その差は開きつつある。

図４の県外高校については、2015年度男子志願者数5,060人、女子志願者数4,456人と、県内高校とは逆に男子の志願者数が多

図2　新潟県内大学志願数推移（県内・県外高校別）

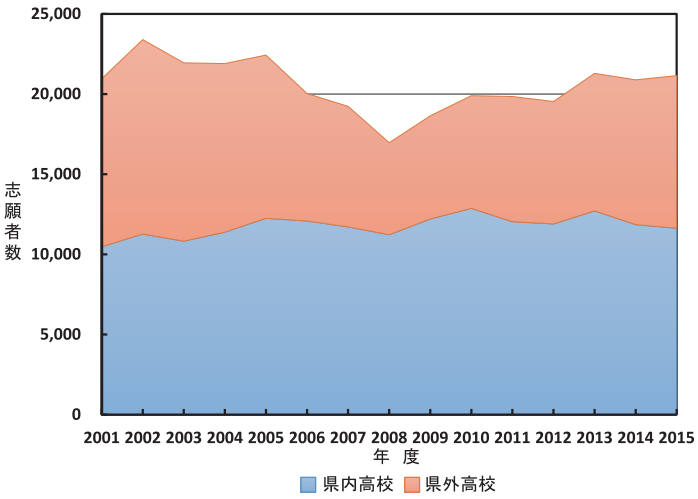


図3　新潟県内大学志願者数推移（県内高校，男女別）

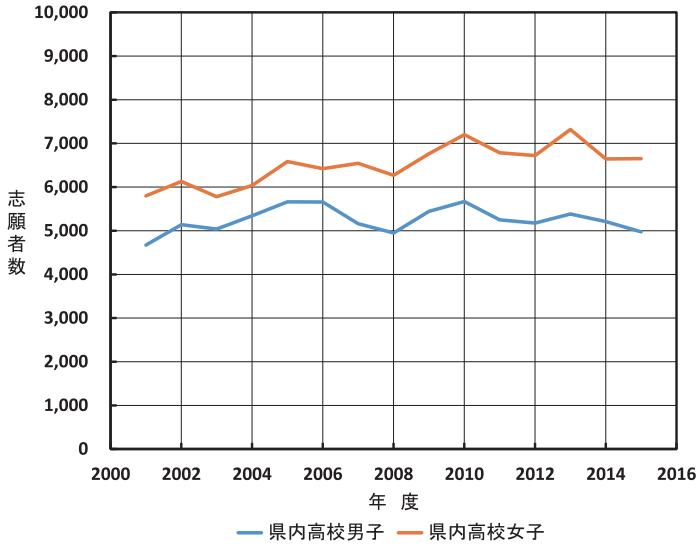
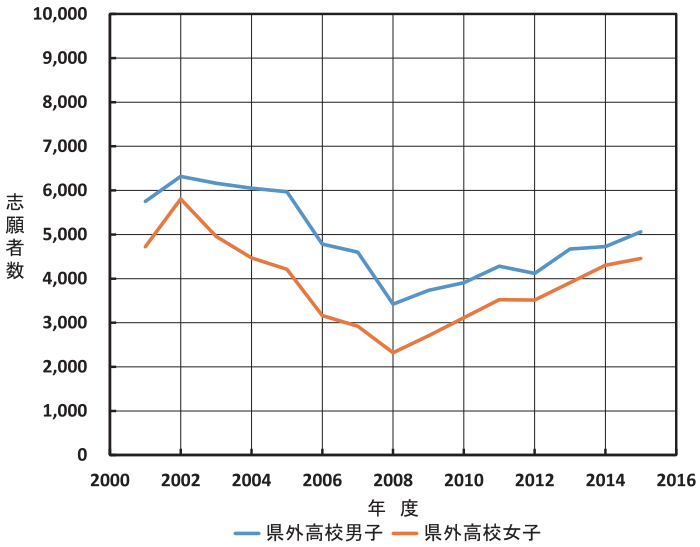


図4　新潟県内大学志願者数推移（県外高校，男女別）



い。過去の推移においてもこの傾向は変わらない。時系列でのプロフィールでは、調査期間において男女とも2002年度に志願者数のピークがあり、その後減少し、2008年度が最小である。その後増加に転じ、現在に至っている。2008年度の志願者数は、男子3,422人、女子2,319人であった。県内高校においては2008年度の落ち込みは若干見られるものの、前後の志願者数推移と比較してそれほど顕著ではない。この年はリーマンショックのあった年であり、日本を含めた世界経済は大きなダメージを受けた。そのことが原因であると考えられる。しかし、それだけでは県外高校の2008年度以前の志願者数の減少、それ以後の増加を説明できない。2002年度から2008年度にかけての減少は、全国的な傾向でもあるが、受験生の経済的な理由とともに、新潟県外に県内の大学と競合するような分野の大学が数多く設立されたことが考えられる。また、2009年度以降の志願者数の増加は、2009年度の新潟県立大学の設立、2014年度の長岡造形大学の公立化など、公立大学の定員増が県外からの志願者の増加に大きな影響を与えたのであろう。また、この時期に県内私立大学において大学の新設および学科増設による定員増が行われ、志願者数増加につながったものと考えられる。また、近年、社会の経済状態が上向いてきたことも影響しているであろう。2012年度の志願者数の一時的な減少は、2011年３月に東日本大震災に見舞われたことによるものである。また、その後の志願者数の増加は、福島県など震災に遭遇した地域からの志願者が増えたためとも考えられる。

以上のことから、県内高校に比べ、県外高校の志願者動向は、受験環境および社会的、経済的な影響を受けやすいと考えられる。

3－3. 新潟県内大学分類別志願者数推移

ここでは県内大学分類別志願数について、男女別、県内･県外高校別に検討する。

表４には2015年度における新潟県内大学分類別志願者数について、男女別、県内･県外高校別に示す。表５には表４をもとに県内･県外高校別に大学分類別男女志願者数の割合を示した。

表4　2015年度新潟県内大学分類別志願者数

分　類		県内高校	県外高校	計
国立大学	男子	1,860	3,061	4,921
	女子	1,645	1,843	3,488
	計	3,505	4,904	8,409
公立大学	男子	489	539	1,028
	女子	1,680	1,398	3,078
	計	2,169	1,937	4,106
私立大学	男子	2,472	1,447	3,919
	女子	2,565	1,191	3,756
	計	5,037	2,638	7,675
短期大学	男子	156	13	169
	女子	760	24	784
	計	916	37	953
	合計	11,627	9,516	21,143

表４から2015年度の県内大学分類別志願者数は、国立大学8,409人＞私立大学7,675人＞公立大学4,106人＞短期大学953人である。これを男女別に見ると、男子は国立大学4,921人＞私立大学3,919人＞公立大学1,028人＞短期大学169人となる。女子は私立大学3,756人＞国立大学3,488人＞公立大学3,078人＞短期大学784人である。男子と比較して女子では私立大学の志願者数が国立大学を上回り、また、公立大学の志願者数が多い。短期大学の志願者数も女子は多い。

表５の全体の志願者数割合で見ると、国立大学男子23.2％＞私立大学男子18.5％＞私立大学女子17.8％＞国立大学女子16.5％＞公立大学女子14.6％＞公立大学男子4.9％＞短期大学女子3.7％＞短期大学男子0.8％となる。女子の志願者数は全体の52.6％で男子のそれを上回る。短期大学を除いた四年制大学だけでも48.9％とほぼ過半数を占めており、現状では県内大学志願者の半数以上は女子である。

図５には2001年度から2015年度にかけての県内大学分類別志願者数推移を、大学分類別の志願者数の

積み上げグラフによって示す。

国立大学の志願者数は徐々に減少している。私立大学は、近年、緩やかに増加している。短期大学は一定の志願者数を確保してはいるものの、徐々に減少している。一方、公立大学は2009年度から志願者数が急増している。これは県立女子短期大学の四大化とその後の長岡造形大の公立化による影響が大きいと考えられる。新潟県の18歳推計人口の減少にもかかわらず[8)]、県内大学への志願者数が増加しているのは、やはり新設された公立四年制大学による志願者数の増加が大きい。このことは現在に至るまで本県の大学志願者動向に大きな影響を与えている。

図６には県内大学分類別志願者数割合推移を示す。割合で示すことによって上記で指摘した志願者動向の質的な変化がより明らかになる。公立大学志願者数割合の急激な増加と国立大学および短期大学の緩やかな減少がみられる。公立大学の志願者の割合が全体の２割を占めるまでになっている。

参考までに図７－10には男女別の志願者数とその割合の推移を示す。

近年、男子志願者数は頭打ちであるが、公立大学のみが志願者数を増やしている。短期大学への志願者数およびその割合はとても小さい。

女子志願者数は緩やかに増加しているが、これは公立大学への志願者数の増加によるもので、2015年度で3,078人、女子全体で27.7％を占める。また、短期大学は志願者数、割合とも徐々に減少している。しかし、短期大学の志願者数は多くないものの女子を中心に恒常的に一定の層を形成している。このことは、現在でも新潟県では女子の短期大学への進学が選択肢の一つとして存在していると考えられる。

次に県内･県外高校別に志願者動向をみる。

表5　2015年度新潟県内大学分類別志願者数割合

分　類		県内高校	県外高校	全　体
国立大学	男子	16.0%	32.2%	23.2%
	女子	14.1%	19.4%	16.5%
公立大学	男子	4.2%	5.7%	4.9%
	女子	14.5%	14.7%	14.6%
私立大学	男子	21.3%	15.2%	18.5%
	女子	22.1%	12.5%	17.8%
短期大学	男子	1.3%	0.1%	0.8%
	女子	6.5%	0.2%	3.7%
	計	100.0%	100.0%	100.0%

図5　新潟県内大学分類別志願者数推移

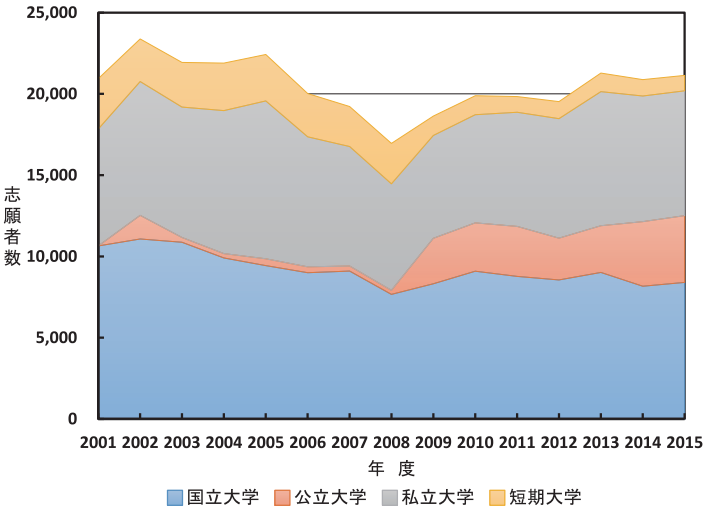


図6　新潟県内大学分類別志願者数割合推移

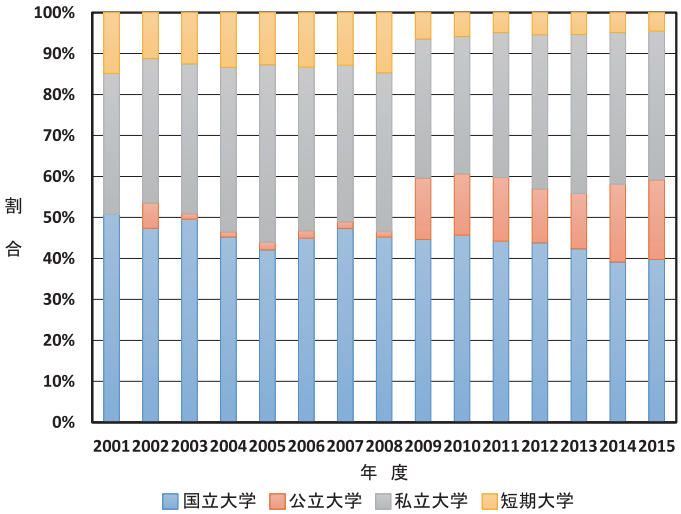


図7　新潟県内大学分類別志願者数推移（男子）

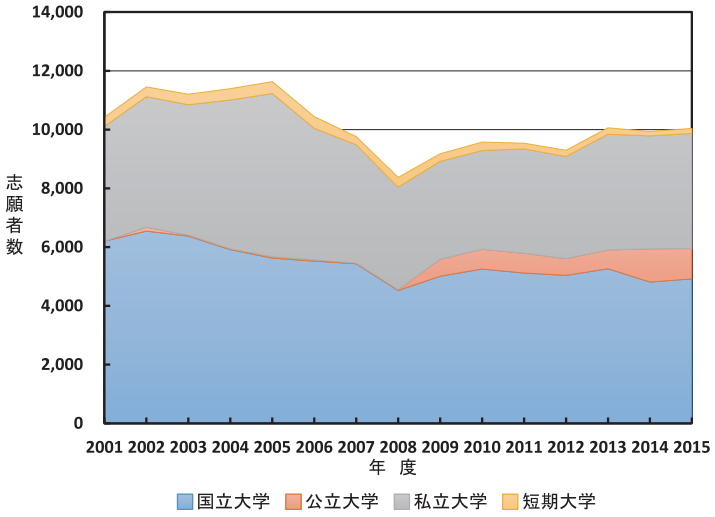


図8　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（男子）

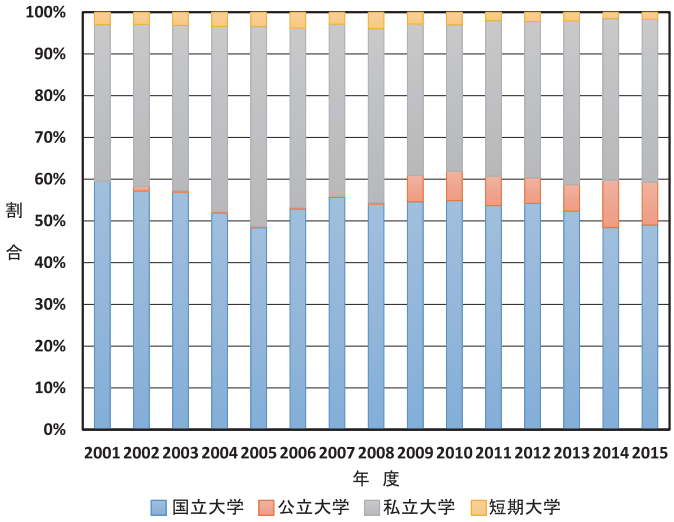


図9　新潟県内大学分類別志願者数推移（女子）

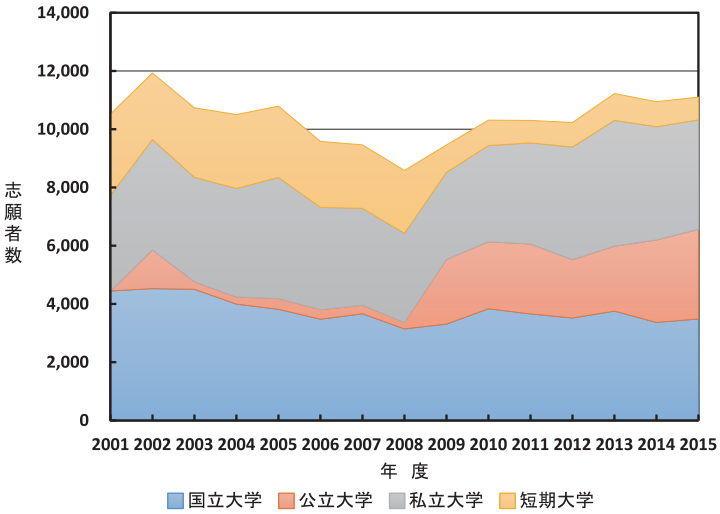
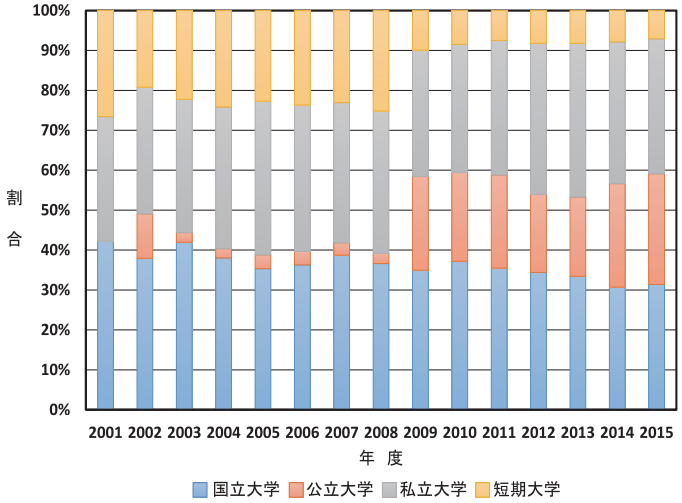


図10　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（女子）



3−3−1.【県内高校】新潟県内大学分類別志願者数推移

表４、５から2015年度における県内高校の志願者数は、私立大学5,037人（43.3％）＞国立大学3,505人（30.1％）＞公立大学2,169人（18.7％）＞短期大学916人（7.8％）の順である。私立大学志願者数と短期大学志願者数を合わせると、実質的に私立大学志願者数が過半数をやや上回る。

図11には県内高校からの大学分類別志願者数の時系列推移を示す。国立大学は徐々に減少し、公立大学の志願者数は、2009年度の県立大学設立によって一気に増え、それ以降は緩やかに増加している。私立大学は2013年度5,833人から減少している。短期大学は県立短期大学の四大化によって2009年度に大きく減少した。その後も徐々に減少しているが、近年は900 ～ 1,000人を維持している。図12には分類別志願者数割合推移（県内高校）を示す。公立大学の志願者数割合が増加し、その他の大学は減少している。

以上のことをさらに男女別に比較する。図13、14には県内大学分類別志願者数推移およびその割合推移（県内高校、男子）、図15、16には同様に志願者数推移とその割合推移（県内高校、女子）を示す。

図11　新潟県内大学分類別志願者数推移（県内高校）

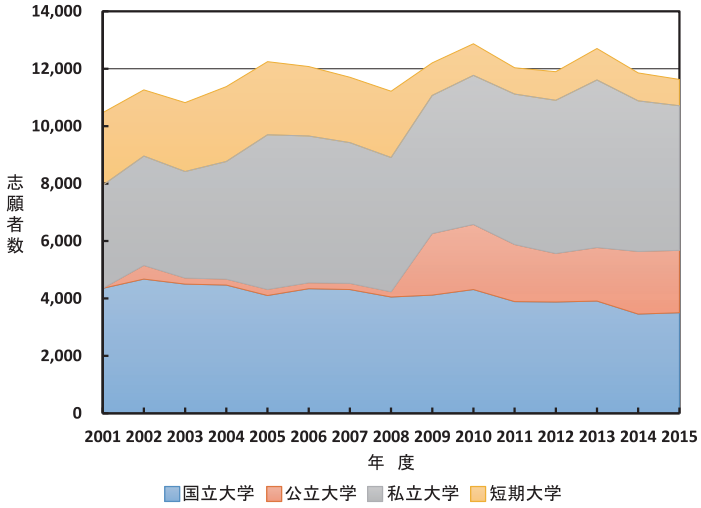


図12　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県内高校）

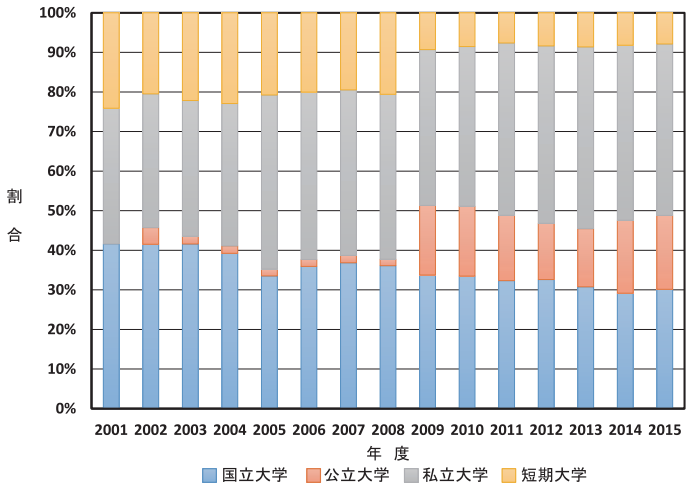


表４、図14、16から、2015年度において、県内高校の男子の志願者数は4,977人、その分類別志願数の内訳と割合は、私立大学2,472人（49.7％）＞国立大学1,860人（37.4％）＞公立大学489人（9.8％）＞短期大学156人（3.1％）である。女子の志願者数は6,650人、その内訳と割合は、私立大学2,565人（38.6％）＞公立大学1,680人（25.3％）＞国立大学1,645人（24.7％）＞短期大学760人（11.4％）である。

男子の県内高校志願者数は4,900 ～ 5,700人を推移しており、近年は減少傾向である。（図13）それに対し女子は、志願者数を増やしながら5,700 ～ 7,100人を推移し、近年は6,600人程度で横ばい傾向を示している。（図15）

その内訳は大きく異なり、男子の場合、私立大学、国立大学への志願者数の割合が高く、公立大学と短期大学の割合は低い。しかし、近年、国立大学、私立大学、短期大学で志願者数が減少し、公立大学の志願者数が増加している。年度によって異なるが、公立大学は男子志願者の10％程度を占め、一定の層を形成している。女子の場合は、男子と比べて、公立大学の志願者数がさらに多く、近年は1,500 ～ 1,600人を推移している。また国立大学、私立大学、短期大学の志願者数は減少しているが、公立大学への志願者数は増加しているため、全体として志願者数の減少は男子に比べて少ない。従って、公立大学志願者数の占める割合は年々増えて20％以上となっている。また、女子では短期大学が10％を超える割合を維持しており、男子のように大学分類別志願者数の間には大きな開きは見られない。短期大学への志願者は県内高校女子によるところが大きい。

図13　新潟県内大学分類別志願者数推移（県内高校, 男子）

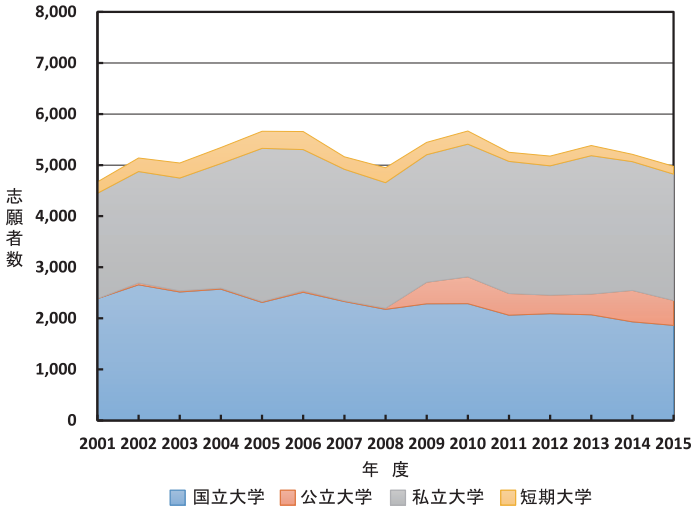


図14　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県内高校，男子）

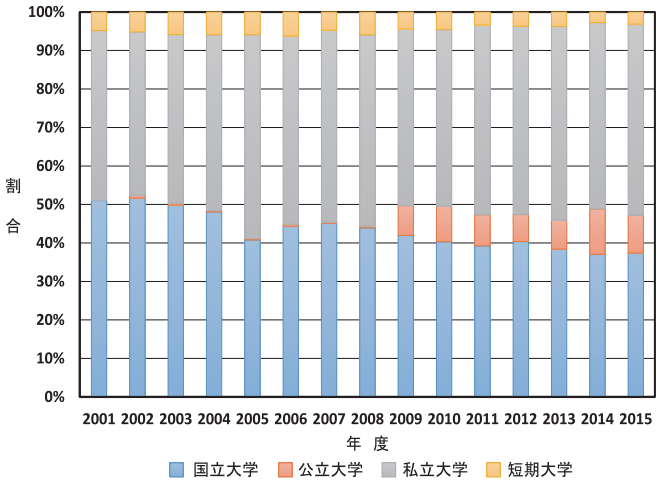


図15　新潟県内大学分類別志願者数推移（県内高校，女子）

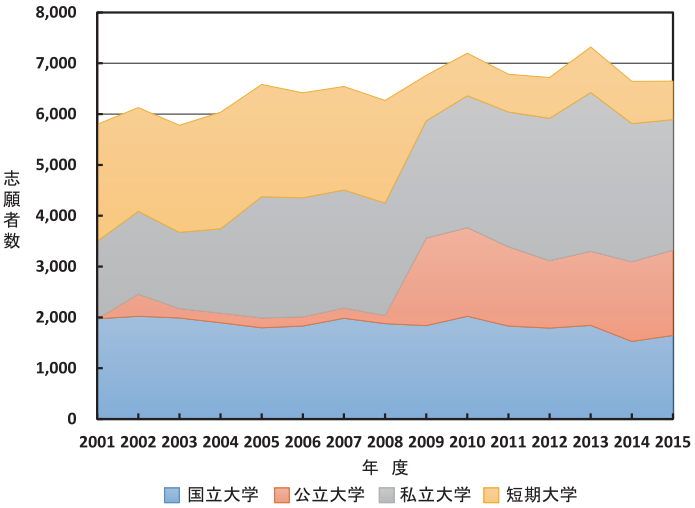
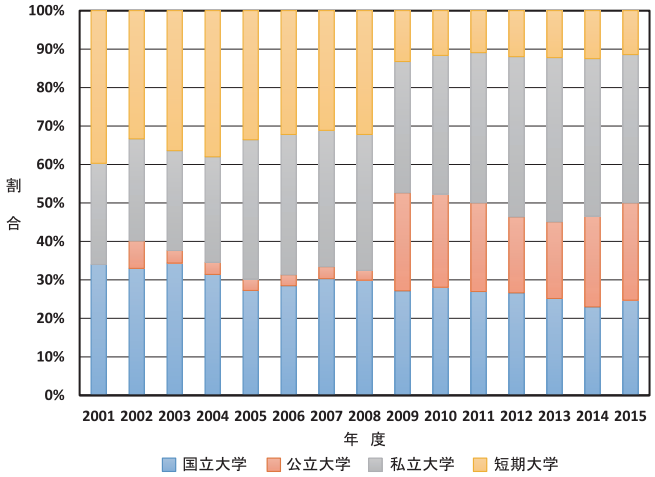


図16　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県内高校，女子）



3−3−2.【県外高校】新潟県内大学分類別志願者数推移

同様に表４、５から、2015年度における県外高校からの志願者数は国立大学4,904人（51.6％）＞私立大学2,638人（27.7％）＞公立大学1,937人（20.4％）＞短期大学37人（0.3％）である。以上のことから、県外高校からの県内大学志願者は、半数以上が国立大学を志望し、公立大学と合わせると７割以上が国公立大学を志願していることがわかる。また、県外高校からの県内短期大学への志願者割合は非常に低く、県内の短期大学は県内高校志願者で占められている。

図17には県外高校からの県内大学分類別志願者数の推移を示す。2002年度をピークに2008年度まで減少し、その後増加に転じて今日まで至る。上述したように2008年度にはリーマンショックがあり、経済が一気に冷え込んだ時期である。経済的な負担が大きい、県外高校からの志願者に大きな影響を与えたことが考えられる。2009年度以降は一転して志願者数は増加している。その要因は、国立大学および新設された四年制県立大学に県外高校からの志願者が増えたことによるものであろう。より低い学費を求めて県外の国公立大学を進学先とする受験生の動きがあったと考えられる。2011

図17　新潟県内大学分類別志願者数推移（県外高校）

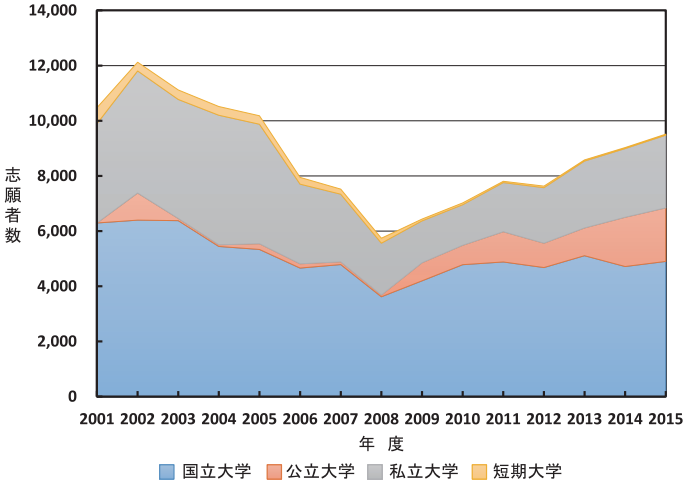
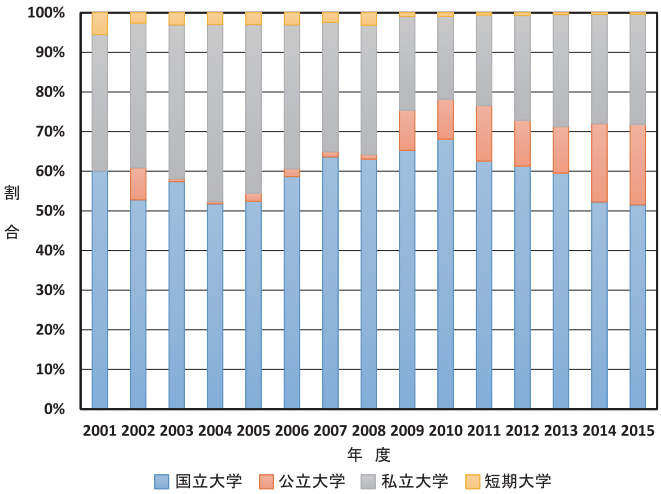


図18　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県外高校）



年度まで県内私立大学への志願者は増えず、この間の県外高校の志願者数増加は国公立大学によるものである。2012年度以降は県外高校からの県内私立大学への志願者も徐々に増加している。これは県内私立大学の新設並びに既存大学の学科新設による定員増によるものと考えられる。図18には県外高校分類別志願者数割合推移を示す。2009年度以降、公立大学の志願者数割合が増加し、公立大学の新設が県外高校受験者の動向に大きく影響することを示している。

県外高校からの志願者について男女別に分け、さらに検討する。

図19、20には県内大学分類別志願者数推移およびその割合推移（県外高校、男子）、図21、22には同様に志願者数推移とその割合推移（県外高校、女子）を示す。

2015年度において、県外高校の男子の志願者数は5,060人、その分類別志願数の内訳は、国立大学3,061人（60.4％）＞私立大学1,447人（28.6％）＞公立大学539人（10.7％）＞短期大学13人（0.3％）である。女子の総志願者数は4,456人、その内訳と割合は、国立大学1,843人（40.4％）＞公立大学1,398人（31.4％）＞私立大学1,191人（26.7％）＞短期大学24人（0.5％）である。

男女とも県外高校の県内大学志願者数推移の変化は、いずれも2002年度をピークに2008年度まで減少し、その後2015年まで多少の変化はあるが上昇している。

分類別で見ると男女とも私立大学志願者数の変化が著しい。男子では2002年度2,267人から2010年度759人と約1/3に減少した。女子は2002年度2,162人から2009年度687人と男子を上回る割合で減少している。このことは、県外高校からの志願者は先に示したような諸々の要因に影響されやすいが、特に女子にその傾向が顕著であることを示す。看護、薬学など女子が多く志望する分野で県外の大学、学部新設が相次ぎ、それ

図19　新潟県内大学分類別志願者数推移（県外高校，男子）

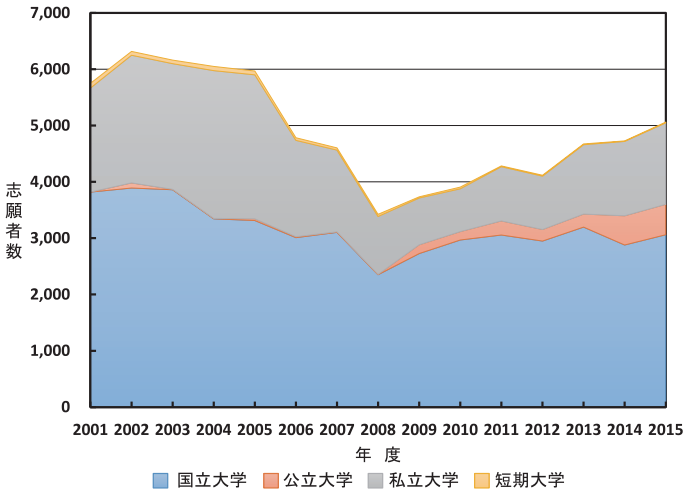


図20　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県外高校，男子）

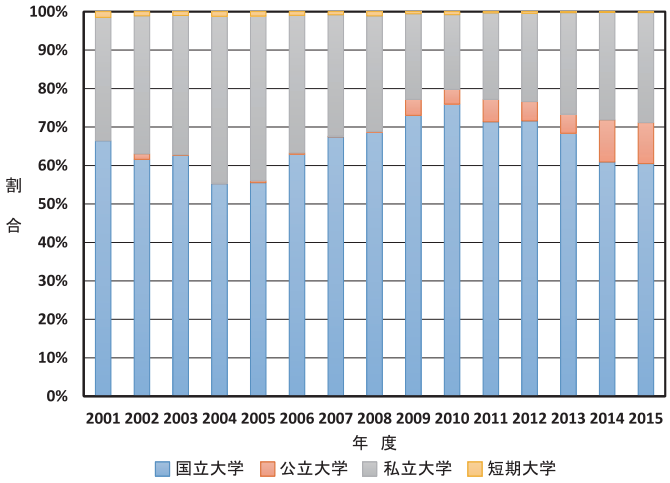


図21　新潟県内大学分類別志願者数推移（県外高校，女子）

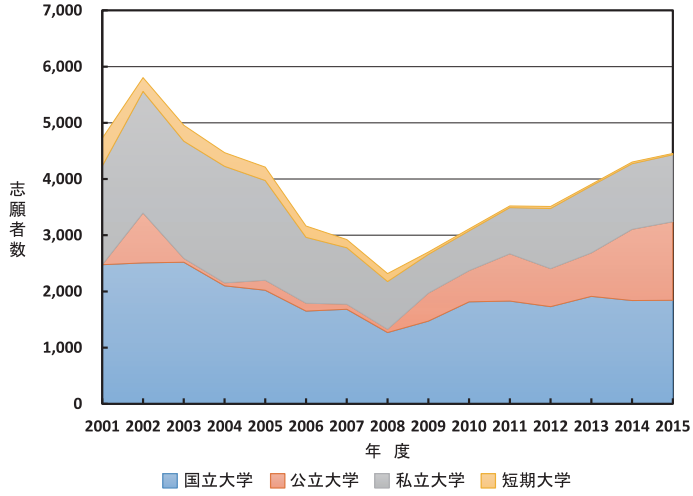
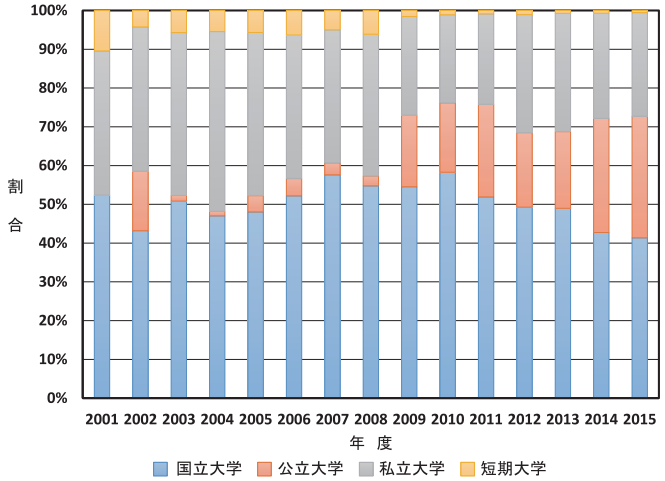


図22　新潟県内大学分類別志願者数割合推移（県外高校，女子）



に経済的な理由も加わったことが考えられる。

男子は国立大学志願者が多く、その次が私立大学である。公立大学が志願者数とその割合を少しずつ増やしている。女子は、国立大学、私立大学の志願者数は横ばいである。しかし、公立大学は急激に志願者数を増やし、私立大学を逆転してその存在を高めている。女子の公立大学志向は新設された県立大学の特色、教育内容、安価な授業料、公立というブランド力などが影響していると考えられるが、県外高校からの県立大学への志願者の動向は非常に興味深い。

4. まとめ

新潟県内の大学分類別志願者数を時系列で調査することで次のことが明らかとなった。

・新潟県内の大学の総定員数は過去15年間で6,281人から6,445人に増えた。その内訳では、私立大学の定員は国立大学より若干多いが、ほぼ拮抗している。四年制大学に限って見れば、国公立大学の合計定員数3,070人は、私立大学2,635人を435人上回っている。当初、県内に公立大学はなかったが、現在、３大学583人がある。短期大学は2009年の県立女子短期大学の四大化により定員数を大きく減らした。

・2015年度において県内大学への総志願者数は21,143人、県内高校から11,627人（55.0％）、県外高校9,516人（45.0％）と県内高校が多い。また,男女別では男子が10,037人（47.4％）､女子11,106人（52.6％）と女子が1,069人（5.2％）多い。

県内高校では男子より女子の志願者数が多く、その差は開く傾向がみられる。県外高校では男子の志願者数が多い。また、県外高校の志願者数は、県内高校に比べて社会的な要因や受験環境の変化による影響を受けやすい。

・大学分類別志願者数において、国立大学の志願者数は徐々に減少している。公立大学の志願者数は四年制大学の新設により、2009年度以降、志願者数が急増した。現在、公立大学への志願者数が全体の約２割を占めており、特に女子志願者数が多い。私立大学の志願者数は、近年、緩やかに増加している。短期大学は一定の志願者数を確保しているが、徐々に減少している。県内大学への志願者数の増加は、公立大学によるところが大きい。

・県内高校からの志願者の動向は、男子では、国立大学、私立大学、短期大学で志願者数が減少し、公

立大学の志願者数が増加している。女子は、公立大学の志願者数の割合が、男子よりさらに大きいため、大学分類別の志願者数の開きは小さく、国立、公立、私立の四年制大学と短期大学が志願者を分け合うかたちになっている。

・県外高校からの県内大学志願者は、半数以上が国立大学を目指し、公立大学と合わせると７割以上が国公立大学を志望している。また、志願者数は社会情勢、経済状況、進学環境などの変化による影響を受けやすく、特に女子はその傾向が顕著にみられる。

県内高校からの県内大学への志願者数に頭打ちの兆候が見られる。このことは、志願者数が多い国公立大学はともかく、私立大学においては、経営上の問題に直結する死活問題である。一方、公立大学の新設によって公立大学の志願者数は増加し、受験者動向に大きな影響を与えている。県内高校、県外高校別での公立大学志願者数は、現時点では県内高校志願者数が若干多いが、このまま推移すると１、２年以内に逆転しそうである。私立大学が公立法人大学化される際によく言われることは、受験生の経済的負担の軽減や地域の若者の流出を抑制し、地域の活性化に繋げるというものである。新潟県内の公立大学の志願者動向の現状は、その趣旨に沿うものであるかどうか、十分な検証、検討が必要であろう。いずれにしてもこのことは、今後、本県の大学教育の在り方を考える上で興味深い。

今回、私立大学の現状の詳細については触れなかった。地方の大学教育を考える場合、それを支える地方私立大学の現状を把握することは重要である。次回は新潟県内の私立大学の志願者動向について報告する。

参考文献

１）新潟県教育庁総務課「平成27年度教育調査資料第3集　大学等進学状況調査報告書」，2015.10
２）新潟県総務管理部統計課「平成27年度学校基本統計速報」2015.8.10
３）総務省「国勢調査速報値」2016.2.26
４）新潟県「新潟県少子化対策モデル事業実施要領」2015.5.13
５）山口雄三，大場純慈，「新潟青陵大学短期大学部志願者数推移とその将来予測」新潟青陵大学短期大学部研究報告，45，11－27．2015
６）新潟産業大学「新潟産業大学の公立大学法人化について（要望）」2014.11.7
７）小出秀文「国公私立 役割見直しを－私大の公立化に異議－」日本経済新聞，2016.1.18
８）新潟県総務管理部統計課「新潟県年齢別推計人口」2001.4－2015.4